弥生 愛南文芸

さわらび短歌会

オカリナのやさしき音色「埴生の宿」　河上　明美

曲になるまでの道遠かりし

病室の壁に朝日の動く影　前田　昭夫

光じわりとブラインド越しに

ひねもすを浜の女らは潮の香に　藤井　擴

包まれ今日も牡蠣を開きぬ

車椅子静かに止めて語り合う　岩村千代子

二人を包む優しいひかり

死者の数日毎に増えゆく北陸の　松本マス子

被災地明日も雪の降る予報

脊柱管の手術の後のリハビリに　扇野八代生

夫と通いて五年目となる

当事国だけでは済まず戦争は　澤近　正弘

我が家に及ぶこの物価高

湯気立てて七草煮ゆるときの間も　前田　充

ラジオは告ぐる能登の惨事を

しんしんと降り来る雪に閉ざされて　門屋あけみ

パッチワークの続きにかかる

咲き初めし蠟梅手折りて花好きの　前田　知子

人らに届けて新年迎へぬ

唱ふれば心経は諭す言葉かと　水野美代子

くりかえしみる朝のひととき

吾の下げるゴミの袋を出しくるる　生田八寿子

隣人の居て一日始まる

菊川俳句会

廃校の別れ遠足ただ七人　中川　一喜

ゆっくりと季節は呼吸梅一輪　安岡留美子

きやらめるは銀歯どろばうヒヤシンス　浅野勇一郎

二センチの勇気とバレンタインの日　迦恋

布袋福々ふくふく牡蠣の腹　福田　りさ

寄り添ひて触れて離れて春の鯉　和田　靖樹

寂しかな穫り残されしみかんの実　河野　孝

かおり立つ満開の白雪中花　河野　清美